

事例名	全国初！経験豊富な有機農業アドバイザーによる就農サポート活動支援
チーム名 【所属名】	環境にやさしい農業推進チーム 【 農林水産部 農産課 】
メンバー氏名	岡野主事、飯田主査、稲田主査、藤原副課長、北山課長
アピール ポイント	<p>《 所属長：農産課長 北山 重敏 》</p> <p>① 有機農業者・普及センターの技術習得から就農相談まで一貫した有機農業サポート体制を整備したのは全国初の取り組み (全国的には、民間有機農業団体や行政主管課が窓口となっている程度)</p> <p>② 普及センターによる科学的根拠に基づいた技術支援と有機農業アドバイザーによる経営やマーケティング等の実践技術支援の両輪による伴走支援の展開</p> <hr/> <p>《 アセッサー：農林水産部 流通・ブランド戦略課 主査 生田 淳一 》</p> <p>有機農業の課題が技術面だけでなく経営まで及ぶことをきちんと認識できている。有機農業のノウハウは各農業者にとって企業秘密的なものであるが、経験豊富な有機農業者と連携し、有機農業を目指す人にアドバイスする制度設計は画期的である。また、農業者が不得手とする部分は普及センターが補完できるので、新たな観点からの相談・支援体制の充実化が図られているものと考える。</p>
取組の目的	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自然環境への負荷の少ない農業技術の普及拡大 ■ 有機農産物を求める消費者ニーズへの対応 ■ 有機農業を志望する就農相談への充実強化
取組の ターゲット	<ul style="list-style-type: none"> ■ 京都府内で有機農業を目指す人
取組内容 プロセス	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1st ステージ <ul style="list-style-type: none"> ・減農薬・減化学肥料栽培に取り組む優良生産者を「環境にやさしい農業推進コンクール（H21～）」により表彰し、その成果を模範にして地域に普及 ■ 2nd ステージ <ul style="list-style-type: none"> ・H22～ 有機農業者の技術交流会の開催（農産課） ・H24～ 普及センターによる有機農業技術講座の開催（南丹・丹後） <p>講座を通じて</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 新規参入に係る相談窓口 ② 技術支援に対する伴走支援 ③ マーケティングや経営面からの相談体制整備 に対する要望・課題が明らかに <ul style="list-style-type: none"> ■ 現在 <ul style="list-style-type: none"> ・H26.4 全普及センターに「有機農業相談窓口」を設置 ・H26.5～ 普及センターによるマーケティングセミナーの開催 ・H26.11 経営を確立した実践者を「京都府有機農業アドバイザー」として登録（茶、水稻、野菜）
成果	<ul style="list-style-type: none"> ■ 技術と経営に関する相談に、有機農業アドバイザーと普及センターが1枚岩で対応する支援体制を整備 ■ アドバイザー制度をきっかけに、生産者ネットワークの構築や技術の高位平準化を目的にした「丹後地域水稻有機農業研究会」が発足
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ■ 有機農業技術や経営ノウハウは農家の企業秘密となる場合が多いため、新規参入者が、技術・経営・販路開拓などの実践的な知識を得ることができるようにした。 ■ 理想やイメージが先行している有機農業志望者が、アドバイザーと直接話すことで有機農業の実態を理解できるようになった。
今後の 展開	<ul style="list-style-type: none"> ■ 有機農業者のネットワーク化によって技術やノウハウの共有を進め、有機農業に興味を持つ農村への移住希望者も含めて新規参入を応援する。 ■ オーダーメイド農家総合支援対策事業（小さな経営革新チャレンジ支援事業）等を活用し、新たに有機農業へチャレンジする方の育成と定着を伴走支援する。